

魔法のプロジェクト2022 活動報告書

報告者氏名：西口知里 所属：茨木市立茨木小学校 記録日：2023年 2月 23日

キーワード：人とのかかわり、見通しをもつ

【対象児の情報】

・学年 小学4年 Aさん

・障害名 自閉症スペクトラム

・障害と困難の内容

知的障がいを伴う自閉症

注意欠損多動性障がい(AD/HD)

パターン化したことを繰り返すことは得意である一方、こだわりにつながり、うまく立ちいかずに不安定になる。

【活動目的】

・当初のねらい

・ICT 機器の活用を学び、安心して学校生活を送ることができる。

・ローマ字入力を通して、タイピングの習得と日常の日記をつけることができる。

・実施期間 2022年6月から2023年2月現在

・実施者 西口知里

・実施者と対象児の関係 支援学級担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

【生活・コミュニケーション】

身辺自立はできている。パターン化したことを繰り返すことは得意であるが、こだわりにつながる傾向がある。うまく立ちいかずに不安定になることがある。例えば毎日、特定の友だちに「バイバイ」と言ってから帰らないと不安定になってしまう。

友だちと関わるのが好きだが、どのように声をかけていいかわからず、相手を不快にさせてしまうことがある。また遊びのルールを理解が難しいときがある。

注意されたり、怒られたりすることに不安感を持っている。今までに起きた嫌なことが思い出される。

【学習】

視覚優位であり、漢字の意味理解は難しいが、覚えて書くことができる。(学年相当の漢字の読み書き)5文程度の文章を読み、理解することができる。相手の気持ちを読み取る問題は難しい。

簡単な四則計算ができる。計算するときは、計算ブロックを使うなど自分の中で安心して学習できるツールは繰り返し使おうとする傾向がある。

校外学習や授業の際には、「先生は誰がくるの?」「次の社会は教室来てくれる?」など、見通しが持てないとき不安な気持ちになることがあり何度も予定を確認したりする。

ねらい1：ICT 機器の活用を学び、安心して学校生活を送ることができる

春の校外学習

私(支援学級担任)が同行することができなかった。そのため、事前学習を行い、見通しをもって活動できるようにした。

「西口先生は3年生と一緒に行くから行けないの。だからね、〇〇先生と一緒に行く。」と、1週間以上前から繰り返し確認し、私に話しかけていた。校外学習の事前学習として Keynote で作ったスケジュール(図1)を使用した。また、博物館のホームページを自分で検索し、どのようなところか調べた。

対象児の事後の変化

校外学習から帰ってくると、事前のスケジュールや博物館のホームページを見ながら、「博物館でここ見た!あったよ!」、「大丈夫だった」と安心した様子で話をしてくれた。家でもワニや恐竜、アザラシがいたよと報告していた。また、作文を書く際には、「魚の写真を見たい」と自ら申告し、事前学習の資料を活用した。

校外学習の事前資料は A さん専用として作成したが、支援学級の他学年の子どもたちも「A ちゃん見せて!4 年生になったらここ行くの?恐竜好きやから見たいわあ、かっこいいな」と話しかけられ、会話を広げるこ



とができた。

友だちとの関係

7月に入ってから、友だちとの関係が原因で不安定になってしまう場面が増加した。友だちと関わろうとする気持ちがあるが、言葉としてうまく表出できずイライラしてしまい、友だちにあたってしまうなど不安定な行動に出ることがあった。

そこで、保護者の方と連携しながら、安心して学校生活を送れる方法を模索した。学校や家庭でどのようなときに適切でない関わりが出ているのか今までの記録を洗い出し、記録を続けていった。(表1)また、Aさんとは、がんばりカードを作成し友だちとの関わりがうまくいった日にシールを貼って成功体験を重ねている。(図2)

		学校	家
7月5日	火	Bにパンチするまね。まねでもされたらびっくりするよと伝える。	友だちが怒るの嫌だと怒る。リモコンを投げる。
7月6日	水		ランドセルを投げる。奇声を発する。しんどい友だちいない、学校変わる。
7月7日	木	Bの足を踏む。	
7月8日	金	Bの足を踏む。担任がダメです！と少し強く言うと、30~40分泣く。メガネのレンズをとる。マスクちぎる。	家でも踏んだことを伝える。
7月9日	土		家で機嫌が悪くなる。
7月10日	日		
7月11日	月		
7月12日	火		
7月13日	水		
7月14日	木	13日下校時 Bが傷つくことを言う。友だちから注意を受ける。「友だち怒るのこわい」3人に指導する。	友だち怒るの怖いと毎日言っている。

表1 日々の記録

対象児の事後の変化

保護者の協力もあり、家であったことを連絡帳に書いていただいた。A さんも困ったことがあったとき、自分から連絡帳に書いておいてと伝えたり、下記にある、Drop Tap のアプリを使うことで、「きのうイライラしてん」と話すことができた。また、がんばりカードでは、シールを貼ることが楽しみであるが、「今日は先生に怒られたから、シールは貼れないね」と、自身の行動を振り返る時間を意識的に持つことができた。「もうだめだよ」改善しようとする姿があった。そこからイライラしたときにとる行動について考えた。①「ストップ」と言って決めたポーズをとる、②「イライラしないよ」と声に出す、③好きな画像をみるといった作戦を A さんと考えた。



図2 がんばりカード

運動会練習

運動会のダンスの練習動画や自分達が実際に踊っている動画を iPad に入れて支援学級での練習に活用した。

対象児の事後の変化

一緒に学習している友だちが「A ちゃん動画見たいから流して～」と声をかけたり、A さんから「今からやるよ」と、周りに声をかけてあげたりする姿があった。周りから頼られる場面ができてうれしそうだった。運動会終了後も「先生ダンスしたいから Habit を流して」と私にリクエストし、友だちと一緒にダンスを楽しんでいた。iPad がコミュニケーションを広げる一助になっている。(図 3)



図3 友だちと一緒に動画をみる

ねらい 2：ローマ字入力を通して、タイピングの習得と日常の日記をつけることができる。

日記・ローマ字

えにつきのアプリを使用し、自分の中で印象に残っている出来事や気持ちを入力する時間を週2回ほど設定した。友だちの誕生日や日付を覚えるのが得意なため、カレンダーの形式で表示される部分が気に入り、進んで取り組んだ。気持ちを表す言葉のバリエーションを増やすために、DropTap に気持ちのカードを作り、「どんなことした? 気持ちは?」と対話のツールとして活用した。ローマ字は「ローマじちゃれんじ」や「プレイグラム」、「Word」に打ち込む練習などをした。(図4)



図4 ローマ字チャレンジ・えにつき・Drop Tap

対象児の事後の変化

日記をつける活動では、内容は「みんなあそびで、おにごっこをしました。楽しかったです。」などと短文ではあるが、継続して入力できた。はじめは、ローマ字入力だと、時間がかかってしまうため、50音キーボードで取り組んだ。12月ごろローマ字に慣れてくると、ローマ字表を見ながら入力できるようになってきた。(図5、図6)

Drop Tap の気持ちのカードを、「どんなことした?気持ちは?」と対話のツールとして活用すると、「きのうイライラしてん」と自分の行動について話すことができた。(図7)

ローマ字入力は、日記で完ぺきに使用できるまでにいたっていないが、アプリを使いながら学習している。



図5 えにっき

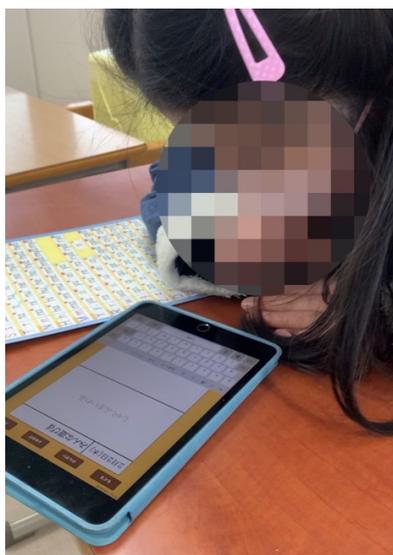


図6 えにっきにローマ字で入力中

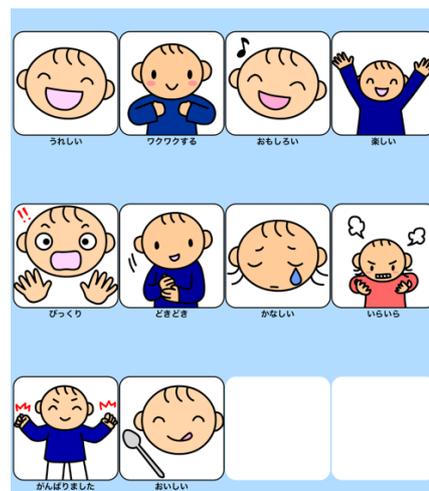
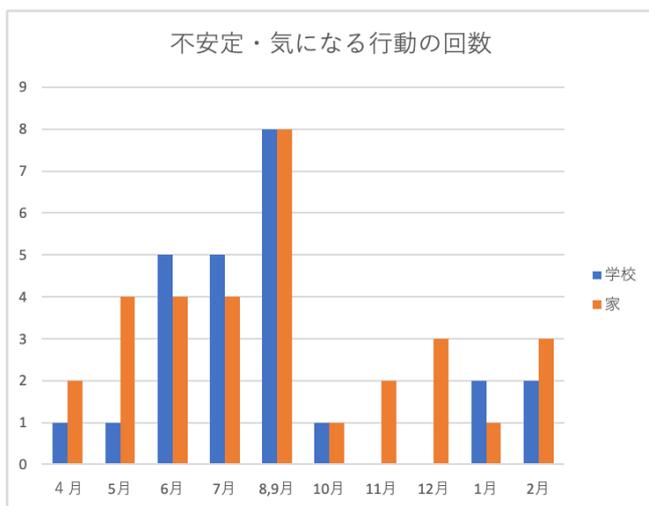


図7 気持ちのカード

【報告者の気づきとエビデンス】

ねらい1:ICT 機器の活用を学び、安心して学校生活を送ることができ
学校で不安定な行動に出たときは、家に帰宅してからも不安定なことが多かった。



4、5月 学年が変わり、今までと異なる部分に戸惑い、家庭で自分の気持ちを発散することが多かった。

6月 自分のルーティーン(誰よりも先に支援学級へ向かう、友だちにバイバイできなかったなど)が崩れ不安定になる。

8、9月 友だちに対して気になる行動が一番多かった。休み明け、運動会で毎日の体育などいつもと違う時間割

から、周りの友だちも不安定になった。それに伴い、気になる行動が増えたと考えられる。

Aさんと考えたイライラしたときに行う行動①「ストップ」と言って決めたポーズをとる、②「イライラしないよ」と声に出す、③好きな画像をみるといった作戦は、学習中に問題が解けずイライラしたときには有効だった。

3学期に入り、私とカードゲームをして遊ぶようになった。私がAさんに負けたとき、私がイライラして怒るという行動に出てみた。そうすると、「先生イライラしないよ。大丈夫」と声をかけることができ、成長を感じた。

ねらい2:ローマ字入力を通して、タイピングの習得と日常の日記をつけることができる。

以下のように「私はしずくちゃんの本を読むのが好きです」とWordに入力してもらい時間を測った。(表2)

表2 実践前後のタイピングの様子

	実践以前	10月	2月
入力にかかった時間(秒)	100	90	70

練習をはじめた頃は、ローマ字表と支援者の指差して自分の名前をローマ字で入力していた。そのため、時間がかかったが、現在は12秒程度、ローマ字表なし、一人で打てるようになった。アプリを使用してローマ字練習をしていたが、即時フィードバックがあり、一人でも学習できるので、進んで取り組むことができていた。

日記をつける活動は、ローマ字の習得を主にしていたが、同じような日記が続いたため、気持ちのバリエーションを増やしてあげたいと思い、Drop Tapで気持ちの一覧を作成し、提示してみた。えにっきのアプリに残すことはしていないが、一覧をみてイライラしたときのことを振り返ることができる時間がつくれて大変良かった。

・その他エピソード(画像などを含めて)

「これって、カレンダー？」

iPadを自由に使える時間に「先生、これってカレンダー？」とスケジュールのアプリを見つけてたずねてきた。「最初に+のマークを押して～」とやり方を一度伝えると、「修了式は3月〇日。」と自分で入力を始めた。「5年生の始業式は先生4月何日?ここは参観日。」と、どんどん入力していった。

家でも学校でもカレンダーをよく見ている、友だちや先生の誕生日を一度聞くと覚えることができる。今後、見通しをもてる本児の安心ツール、スケジュール管理のツールとして活用できそうだと感じた。(図8)



図8 カレンダー